

## 不燃の技術で木の温もりを守り、国を越えて届けたい 銘木に新たな命を吹き込み、和の空間を次代に繋ぐ



専務取締役 深井 雄太

丸石銘木 有限会社  
〒016-0171  
能代市河戸川字中谷地3-2  
TEL 0185-54-1398  
FAX 0185-55-0769  
<https://www.maruishi-meiboku.co.jp/>



HP

### 理系の視点で家業を再定義し 非住宅分野へ舵を切る

1890年に紙漉き業として創業した丸石銘木有限会社。木都・能代で130年以上の歴史を刻み、和室の天井板をはじめとする杉やひのきの部材を作り続けてきた。

専務の深井雄太さんは大学院を卒業後、医薬品メーカー向けの研究設備の設計に携わっていた経歴を持つ。「自分ごととして挑戦できる規模の企業で経験を積みたい」と考え、選択した仕事だった。2021年に秋田へ戻った雄太さんは、父とともに大きな転換期を迎えている。人口減少により一般住宅向け需要が減少する中、神社仏閣や高級ホテル、公共施設などの非住宅分野へと方向を転じたことで、新たな突破口を切り開いた。30年前から培ってきた独自の「不燃加工技術」を武器に、防火基準の厳しい大規模施設でも天然木の風合いを楽しめる製品を提案。伝統ある銘木加工の道に、新たな生存戦略を見出している。長年培ってきた確かな加工技術に、次代を担う柔軟な感性を掛け合わせることで、唯一無二の価値を市場へ示そうとしている。



同社では木材を0.2ミリという薄さにスライスする設備を備えており、木の質感を感じられる天井板や床板、壁用部材を製作。

### 目利きと加工の川上から川下まで 秋田の銘木を世界へ

雄太さんは現在、営業スタイルの抜本的な改革に奮闘中だ。従来の銘木店や建材店、大手建材商社を通じた販売に加え、ゼネコンや工務店、建築士、デザイナーなど、空間づくりに携わる多様な関係者へ製品の魅力を届けるため、カタログの刷新や情報発信にも力を注いでいる。

特に力を注ぐのは、原木から製材、加工までを一貫して自社で行える「木材の料理法」の多様さだ。この強みを活かし、かつて父が中国に拠点を築いたように、雄太さんも積極的な海外展開を視野に入れている。既に欧米などからも引き合いがあり、秋田の銘木が持つ「和」の価値をグローバルな流通に乗せることが大きな目標だ。

また、神社仏閣やホテルなど非住宅分野で培ってきた不燃技術を一般住宅のキッチン周りにも普及させ、安全で豊かな居住空間を実現したいという父の夢を叶えることにも意欲を燃やす。父から受け継ぐ確かな目利きと柔軟な発想力を武器に、能代から世界へ。地域が誇る伝統を、次代が求める新たな価値へと昇華させるための挑戦は、今まさに始まったばかりだ。



先代から「私ができなかったことを成し遂げて欲しい」と託された社長の範保さん(写真右)は雄太さんにも同じように願っている。



和の素材であり、不燃材という強みを持つ丸石銘木の部材。近年は防火に対する基準も高く、神社仏閣での需要も増えている。